

出題の意図

(2026 年度入試 各科目の出題の意図)

国語

高等学校の共通履修科目である「現代の国語」及び「言語文化」（古典・漢文を除く）を出題範囲として、本学での学修に必要な国語の力を身に付けているかをみることをねらいとしています。

「現代の国語」では、科目の目標の一つである「実社会に必要な国語の知識や技能」を重視するとともに、「内容や構成、論理の展開」（学習指導要領）の理解を重視しています。また、学習指導要領が「書くこと」の学習に多くの時間をあてていることを踏まえて記述力を試す設問も複数用意しています。

「言語文化」では、科目の目標の一つである「論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力」を重視するとともに、「語感を磨き語彙を豊かにすること」（学習指導要領）を重視しています。

どちらの科目においても、文法の理解や言葉の意味・使い方などの基本的な知識や技能に加え、論理的に文章を捉え、内容を的確に理解しているかどうかの力が求められます。

数学

【出題のねらい】社会科学、人文科学、自然科学やその周辺分野を学ぶために必要な数学の基礎学力を見出すことを目的とします。

【評価する能力・資質、および評価のポイント】基本的な計算能力（「数と式における」因数分解、不等式、連立方程式、分母の有理化、三角関数、展開の公式など）を問います。正確に計算を実行するのみならず、時間内に終わらせられるスキルも必要です。また、基本的な関数の理解力（1次関数、2次関数を題材に、関数のグラフと方程式をひとつのものとして理解しているか）を問います。これには、関数値の最大・最小、2次式の平方完成、判別式に関する理解を基礎としています。さらに、基本的な図形の理解力（「図形と計量における」円と三角形、四角形を組み合わせ、正弦定理や余弦定理など三角関数の基本公式を使いこなし、最終的に求められている値を取り出せる能力）を問います。これには三角関数を使い慣れていることが重要です。最後に論理的思考力（「場合の数と確率における」確率の算出や数え上げの能力）を問います。必ずしも定型的でない問題を出題しますが、それは、基本の理解と数え上げのスキルをもとに、初見の問題でも解決できる能力を持つことを期待してのことです。どの分野も基本事項の正確な理解とそれらを使いこなす運用力を求めています。

英語

「英語を使って考える」力や「英語でコミュニケーションする」力の基盤となる知識や技能を評価するため、英文（短文）の語彙・文法・構文、英語会話文の理解、英文（長文）の文脈補完、英文（長文）の読解などから構成される問題を作成しています。

基本的かつ重要な語彙、文法、構文項目を運用する力（空所補充や類義文の組み合わせ）、英文の空所を論理的に特定する力（前後の文脈から最適な表現を選択）、学術文や実用文を読んで、理解する力（文章の主旨や詳細情報の把握や整理）を総合的に評価します。

情報

「情報社会と問題解決」の分野では、「知的財産権」「個人情報」に関する基本的な用語の知識と、実際の社会で起きている課題の理解が求められます。

「情報のデジタル化とコンピュータ」の分野では、基数変換や2進数の特性、基本的な論理回路についての知識と論理的思考が求められます。

「情報通信ネットワークとセキュリティ」の分野では、ネットワークの仕組みと情報セキュリティの基本的な知識、および実社会での課題についての理解が求められます。

「データ活用とシミュレーション」の分野では、ヒストグラム、箱ひげ図、相関係数など、データ分析に関する基本的な知識と処理技能が求められます。

「アルゴリズムとプログラミング」の分野では、基本的なアルゴリズムを理解するための論理的思考と、繰り返し処理、条件分岐、配列などのプログラミングに関する基礎的な知識・技能が求められます。また、プログラミング言語は「大学入試共通テスト」に準拠します。